

下地の調整

下地の平滑仕上げ

施工後の不陸・変色の原因となるネジ・釘類は、突起を完全に沈めてサビ止めをしてください。壁紙だけで下地の不陸を防ぐことはできません。天井や間接照明付近など、使用環境によって下地の不陸(段差、パテ跡、釘跡、糊ダマリなど)が目立つ場所がございます。特に表面がフラットな商品や薄手の商品は下地の影響を受けやすいため、入念に下地処理を行い施工してください。下地に配慮した施工を行うため、施工費が割増しになる場合がございます。

下地に応じたシーラー処理を

木質系、合板下地、コンクリート下地、モルタル下地に直接施工すると、壁紙にシミや変色が発生することがあります。それぞれ専用のシーラーで下地処理をしてください。シーラーは壁紙の接着不良や変色を防ぎます。

下地と同色のパテを使用

施工後、下地の色が透けて見える場合がありますので、パテは下地と同色のものをご利用ください。

下地は乾燥させてから

パテやシーラー処理を施した箇所、モルタル下地、コンクリート下地に直張りする場合、下地が十分に乾燥(水分率11%以下)してから施工を始めてください。湿気を帯びていると、壁紙の変色・剥がれ・かびを発生させることができます。

塗料が下地に付着していると

窓枠・扉枠の塗料(ペンキ、オイルステイン)が下地に付着している場合は、必ずシーラー処理をしてください。変色や剥がれ、目スキを防ぎます。

リフォーム時

張り替え時、以前張っていた壁紙の裏打ち紙が残っている場合、残った裏打ち紙は完全に剥がしてから張ってください。そのまま施工すると、目スキや浮きを発生させます。

張り付け

有効巾について

壁紙は必ず見本帳に表示している有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含みません。有効巾以外での使用は左右の色違いを発生させます。

張り出し確認

壁紙を2巾張った後、商品に問題がないことを確認した上で作業を続行してください。問題のある場合には販売店までご連絡ください。3巾以降の作業が進行した場合、施工費賠償につきましては原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

石膏ボードを切らない

重ね切りを行う場合は石膏ボードの表層紙まで切り込まないようご注意ください。目スキが発生する原因となります。

カットに地ベラを使わない

地ベラを使った重ね切りは避け、必ず定規をご使用ください。地ベラを使うと切り口が斜めになり目スキの原因となります。

ローラー掛けは力まずに

ローラー掛けは、強くかけ過ぎないでください。ケセが残ったり、光沢ムラを発生させます。撫で付け、空気抜きは、タテ方向を基本に行ってください。強くヨコ撫でると、数日後に目スキが発生することがあります。

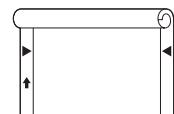
ジョイント位置について

ジョイント位置は、端部同士で施工してください。壁紙の端部と壁紙の中央部でジョイントした場合には色差が生じることがあります。天地左右を確認の上、同一方向で施工してください。方向の違う施工や部分補修など一部のみ異なる施工は色違いが起こりやすいためご注意ください。また、描写が細かい等デザインの特性上、ジョイント部を正確に合わせることが難しい場合がございます。お含みおきください。

ジョイントマーク・天地マーク

▶ ジョイントマークは壁紙の両端にございます。(商品特性上、ジョイントマークがない場合があります。ご了承ください)

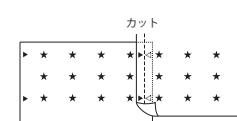
↑ 天地マークは壁紙の片端または裏面に入っています。



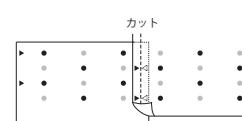
柄合せについて

ジョイントマークを目安に柄を合わせて施工してください。柄合せの必要な商品は、見本帳にリピートを表示しています。見本帳のリピート表示に「エンボス」または「プリント」と表示しているものについては、その表示にしたがって柄合せをお願いします。柄合せの必要な商品は、無地よりも要尺が多くなりますのでご注意ください。「無地張り可」と表示のある場合は、柄合せする方がより美しく仕上がりますが、柄合せしなくてもジョイント部が目立ちにくいタイプです。ステップ柄合せの商品は1/2ステップと表示しています。

平行柄合せ

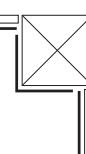


1/2ステップ柄合せ



建物の構造に適した施工をお願いします

プレキャストコンクリート、ALC板などは建物の構造上、板の継ぎ目部分を振動の逃げ場にしていますので、これを



またいで壁紙を張ると、ふくれ、よじれ、割れなどが発生します。このような場合、紙と樹脂でできている壁紙では防ぐことはできません。

入隅の場合、下地の継ぎ目に合わせて壁紙もジョイントするようにしてください。木製の柱、胴縁、木製パネルにボードを付けた下地の場合、木材の乾湿による下地の動きにつれて、継ぎ目や、出隅、入隅にすき間が生じことがあります。この場合も上記同様、入隅でジョイントしてください。

施工後は自然乾燥を

施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。施工中・施工後とも冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目スキ・剥がれが発生します。施工時の臭いが残っていますので、施工後1~2週間は必ず換気を行ってください。

施工糊／折りジワについて

糊メーカーの注意事項を確認

施工糊の希釈は、糊メーカーの指定割合を守ってください。塗布量は140~160g/m²を目安とし、均一に塗布してください。塗布量の不足は、壁紙の相剥ぎや接着不良を発生させます。下地の種類と状態、温度、湿度に合わせてエチレン酢ビ系接着剤などを適量添加してください。

糊付け後の注意

壁紙を糊付け後、きつく折りたたんだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折りジワが付くと元に戻らない場合もあります。特に汚れ防止品はご注意ください。

折りジワについて

折りジワについて注意文がある商品は、取り扱いに注意が必要です。折りジワが付くと元に戻らない場合もあります。

壁紙は伸び縮みします

壁紙に糊付け後、室内環境及び壁紙の品種に応じたオープンタイム(養生時間)を取ってください。適切なオープンタイムは施工を容易にするとともに、ふくれや目スキの発生を防ぎます。

付着した糊や汚れの処理

壁紙の表面や廻り縁等に糊・汚れなどが付かないように注意してください。付着した場合は、きれいな水を含ませた布で直ちに拭き取り、最後に乾拭きを行ってください。特に濃色の壁紙は糊の拭き残しにご注意ください。糊が付着したまま放置するとかびや変色の原因になります。

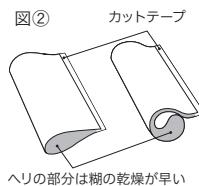
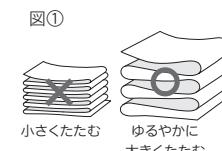
糊付け後の折りジワを防ぐポイント

①重ねる枚数を制限する
ゆるやかに大きくなめ、重ねも2~3枚以内にしてください。(図①)

②壁紙を巻く
壁紙に糊付けした後、壁紙をたたまないでヘリにカットテープ(養生用プラスチックテープ)を付け、頭としりをこのテープを挟んで合わせてふわっと置き、重ね置きをしないでください。(図②)
長さのあるものは同様にした上で軽く巻き、必要なオープンタイムをとってください。その際、重ね置きはしないでください。

③壁紙をプラスチックの袋などに入る
糊付け後の壁紙は、プラスチックの袋や容器に入れて乾燥があまり早く進まないようにオープンタイムを取るのが最良の方法です。

糊付け後のたたみ方



参考資料：壁装施工団体協議会発行「素晴らしい壁紙に素晴らしい技術」

養生

粘着テープは使用しないでください

粘着性の強いマスキングテープ(養生テープ)の使用は避けください。粘着性の弱いものであっても貼り付けたまま長時間放置しないでください。粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、テープを剥がすときに壁紙を破損することがあります。

ご確認ください

商品受領時のお願い

受領時には納品書と商品現品を確認してください。万一ご注文と違う品番や規格外の商品が納入された場合は、購入先へご連絡ください。

ご一読ください

特に施工上の注意を必要とする商品には、品番の横に△印を付けています。施工上の注意に準じて施工してください。

副資材について

パテ・シーラー・糊は、必ず壁紙施工専用品をご使用ください。専用品以外のものを使用すると、目スキ、ふくれを発生させることができます。副資材メーカーの施工要領・取扱い注意事項を必ずご一読ください。

品番とロット番号の確認

商品ラベルに記載されている品番・ロット・数量をご確認の上、施工を始めてください。同一表面上は、同ロットで糊付けした順に仕上げてください。順番を間違えると色ムラを発生させることができます。

壁紙選択上のご注意

防火性について

建物の内装仕上げについては、建築基準法による防火上の基準が設けられています。防火性能は、下地基材と防火認定材料の組み合せ及び施工方法によって変わりますので、詳しくは別冊価格表の防火性能欄をご覧ください。

機能性壁紙について

機能性壁紙をご利用の際は、それぞれの特徴や注意点をご理解の上、ご使用ください。

柄合せ商品について

柄合せの必要な商品は、無地よりも要尺が多くなりますのでご注意ください。見本帳などの「柄リピート」表示を参考に柄合せてください。柄リピート表示は理論値であり、若干の誤差が生じます。施工の際は、柄を目視で合わせてください。

壁紙の柄の見え方について

壁紙は同じ柄の繰り返しで作られているため、光の当たり方・見る角度などによって柄の繰り返しが目立つ場合があります。あらかじめご了承ください。ベース原反に着色していない商品はジョイントが白く目立つ場合があります。特に濃色の商品は目立ちやすいためご注意ください。施工時カッターが斜めに入ると白いラインが目立ちやすくなるため、切り口が必ず垂直になるようにご注意願います。

使用環境について

高温・多湿・水漏れの環境や、屋外での使用は避けてください。

施工費について

商品の施工難易度の違いや現場の状況に応じて施工費が割増しになる場合があります。あらかじめ商品の特性や現場の状況などを確認の上、商品選択をお願いします。

見本帳について

施工例の写真は印刷のため実際の商品と異なって見える場合もありますのでご了承ください。商品の色が、見本帳の品質見本と多少異なる場合がありますのでお含みください。掲載商品の価格及び仕様は、本見本帳発行時(2024年4月)のものです。経済の変動、品質の改善により、やむを得ず価格及び仕様を変更させていただく場合があります。当見本帳に記載されている各種試験データは測定値であり、保証値ではありませんのでご了承ください。当見本帳に掲載している商品及び写真等を許可なく複製、転載することを固くお断りいたします。表示価格は希望小売価格です。消費税は含みません。

不要になった見本帳の廃棄

廃棄物処理法に基づき、不要となった見本帳も産業廃棄物としての取扱いが必要です。資格を有する産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。

⚠ 施工上の注意

- 特に注意が必要な下記機能性商品の施工要領についてご説明します。
- 以降の商品群は、一般ビニル壁紙と比べ施工難度が高いため、施工費が割増しになる場合があります。あらかじめご了承ください。
- 一般的な壁紙の施工方法や、壁紙全般に共通する基本的な内容は、左頁記載の「施工のポイント」をご参照ください。

汚れ防止壁紙 ●汚れ防止 (エバール®フィルムタイプ ファンクレア®フィルムタイプ) ●リフクリーン ●アカルクリーン ●ハードタイプ 汚れ防止 ●スーパー・ハードタイプ	糊付け 下地は平滑にし、濃いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 施工終了後 表面に付いた糊は変色の原因となりますので、きれいな水を使用して十分に拭き取ってください。 モルタルやコンクリートの下地に施工する場合 下地からの汚れやふくれを防ぐために、下地表面をシーラーで必ず2度処理してください。 低温時に施工する場合 オープンタイムを長めにとってください。 冬期は出来るだけ室内温度を暖めて施工してください。 接着剤は5°C以下になると接着強度が落ち、下地に逃げられない水分・空気が表面に抜けることができます。 モルタル、コンクリート下地の場合は特に発生しやすいのでご注意ください。
●ハードタイプ 撥水コート	糊付け 下地は平滑にし、濃いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 低温時に施工する場合 オープンタイムを長めにとってください。 冬期はできるだけ室内温度を暖めて施工してください。
●表面強化 ●ハードタイプ	糊付け 下地は平滑にし、濃いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 糊付け後は折りジワが付かないように大きくなたみ、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。 汚れ防止機能を持つものは上記の汚れ防止壁紙の施工上の注意をご参照ください。
●シッカクロス	糊の乾燥が早いため、付け留めはできません。長時間置くと相剥ぎや目スキの原因となります。 糊付け後から施工直後は、糊の水分の影響で表面が黒っぽく見える場合がありますが、完全に乾燥すると元に戻ります。
●エアセラビ 透湿 ●透湿	糊の乾燥が早いため、付け留めはできません。長時間置くと相剥ぎや目スキの原因となります。